

# 平成29年度第1回「埴町地域公共交通活性化協議会」議事録

日時 平成29年7月20日(木)午前10時30分～  
場所 埴町役場防災センター 3階会議室  
出席委員：18名(代理出席1名)・オブザーバー：1名  
(別紙のとおり)

(進行：金澤課長)

## 1. 開会 (木村副会長)

## 2. 委嘱状交付

町長代理で副町長より、代表で「棚倉警察署地域交通課 佐藤潤一委員」に交付された。

## 3. 会長あいさつ

## 4. 議事

小松会長が議長となり議事を進めていった。

(鈴木主査より報告)

### (1) 報告第1号 平成28年度事業報告について

### (2) 報告第2号 平成28年度収支決算及び会計監査報告について

報告第1号及び第2号についてまとめて報告を行い、監事の鈴木岳委員が会計監査報告を行った。

※質問なし

報告第1号及び議案第2号について承認された。

(鈴木主査より説明)

### (3) 議案第1号 監事の指名

・事務局：要綱より監事の指名について抜粋して説明

会長より事務局案により

「埴町婦人会 前会長 芳賀とし子氏」を指名し承認された。

(4) 議案第2号 平成29年度事業計画(案)について

(5) 議案第3号 平成29年度収支予算(案)について

事務局より説明があり、以下質疑応答後異議なしの声により拍手で承認された。

#### 質疑・応答

小松会長) 公共交通は使わないと廃止されてしまう。町民の方の意見を十分に反映した内容にするため、遠慮しないで発言してほしい。

芳賀委員) プロポーザルには何業者ぐらい申し込みがあったのか。

事務局) 問合せは3業者あったが、参加表明があったのは2業者である。

芳賀委員) 委託料の額が大きいので、町的意思をしっかりと伝えて計画に反映していただきたい。

会長) 業者だけに任せるのではなく、埜町の意見を反映させるためにしっかりと指示していくということをお願いしたい。計画策定に向けて協議会も開催するが、時期についてはプロポーザルで決まった業者と打合せを行って、部会の実施に合わせて協議会の時期をお知らせするという形になるか。

事務局) これからプロポーザルの結果決まった業者と打合せを行い、3月までの間に計画に反映させる事項について協議会を実施し検討していくこととなりますので、計画が埜町にあった内容になるようにしていきたい。

会長) 振興局鈴木さんの方から、県南管内での動きなど何かあればお願いします。

振興局鈴木委員) 住民懇談会運営支援など仕様書にあるが、委員に意見を託す方もいるが、そうでない方もたくさんいると思うので埜町にとって一番いいものにしていくためには、できるだけ多くの方の意見を吸い上げて精査してやっていくことが大切である。住民アンケートの回収率をできるだけ多くアップさせ、住民懇談会に多くの方に集まってもらうためにも業者主導ではなく、町の方でいろいろ案を考えこうしてほしいと要望を

出すことでより良いものとなると思う。

芳賀委員) 懇談会など人が中々集まらないと思うので、議会で行っている意見交換会など人を集める他の事業と合わせて行った方がよいと感じる。公共交通のみでは、人が集めるのは中々難しいと思う。

会 長) 議会と言うのは参考としても、何かいい方法を事務局で考えてもらうということをお願いしたい。

福島運輸支局牛渡委員) 県内でも形成計画の策定を行っているところが多いと思うが、ある市町村では住民が自分の町の現状をわかっていないところが多いので、広報誌などに町の状況をだして住民の方に問うてみんなに当事者意識を持ってもらい、考えてもらうというやり方もあるのかなと思う。

事務局) 前に行った実証運行についてのアンケートも、地域の民生委員さんなどが聞き取りをしてもらうと本音が見えるということもあったので、関係機関へ相談しながら進めて行きたいと思います。

警察署佐藤委員) バス、タクシーの運行についてですが、高齢化進んでいる地区では免許証の自主返納等に課題があると思う。昨年度の計画では平成29・30年度でタクシーの実証運行の計画があったが、今年度の計画は計画策定をコンサルタントに委託するようですが、昨年度までの計画はどう継続していくのか。タクシー助成金を出し、免許返納を促すという計画はとても素晴らしい、警察としても広報などで関与できるのではないかと考える。タクシー、バスを運行するにしても運行量の問題はあると思うタクシーなどの台数も少ないと思うので課題となってくるのですが、タクシー助成制度について実証運行は継続していくのか？

事務局) 当初は、形成計画に実証運行を盛り込んでいたが、国からの補助金が考えていた額より好かなかったため、事業の継続意向調査の中で計画策定はおこなうが事業を縮小し行うこととしたため、実証運行については

平成30年度に実施したいと考える。あわせてバスの方も見直していればと考えている。

警察署佐藤委員) 免許返納者は今年度については道交法の改正もあり、増えている。その方たちの移動をどうするか、バス・タクシー・家族の送迎になってくるが、なかなか保証がないと失敗したという気持ちになることもあるだろうが、今のところ返納したが特に困っていないという意見もある。タクシー助成について試験運行をしたうえで実行に移してもらうというのがいいのかなと思う。返納した人がみんな使うとは限らないが費用はかかってくるので、試験運行を行ってから実施をすることはいいことだと思う。

会 長) 棚倉管内で自主返納はどのくらいあるのか。

警察署佐藤委員) 1日1件まではいかないが、週に何件かと言う数。本人が来ないと自主返納にならないので、近くに自主返納を考えている方がいましたら本人が行かなくてはダメだとお伝えいただければと思う。道交法が改正されて認知症の疑いがある方は、はっきり言われていしまつて診断書を出せと言う制度になってしまったので、その成績がついた時点で返納される方も増えている。だいぶ広がってきていると感じている。

芳賀委員) 母が自主返納をしたばかりなので、うちは街中なのでそんなに問題はないが、遠い人は大変だと思う。うちの店にくるお客さんで94くらいの方がいるが車がないと生活できないと言っていた。家が遠い人なので、やめろともなかなか言えない。その方は元気な人で毎日運転しているひとだが、微妙だと感じる。できれば心配せずに自主返納できるようになるとよいと感じている。

## 5. その他

吉岡委員) 県南では、白河市・西郷村・棚倉町の協議会に参加させていただいている。白河市も今年度は形成計画策定を進めている。埴町民が公共交通ということで、鉄道・バス・タクシーなど交通を上手く利用していけるように、高齢化もあり交通弱者が増えている状況で、町の財政の枠もあるがその中でより有意義な効率的な計画を立てていくということが今年議題として示された。計画策定は毎年ではなく、前回の連携計画から6年ぶりに立て直す。これまでも毎年協議会は開催されているが、今年は特に計画を立て直すという大切な時期。事務局役場にお任せするのではなく、皆さんがどう公共交通を使っていくのか、むしろ公共交通は使わないとどんどん廃止されてしまいます。鉄道にしてもバス路線にしても、どんどん廃止路線が増えているという状況にある。町民のみなさんが中心となって計画を生かしていく、町民の意見を反映していくという主体的な考えで生かしてほしい。協議会はいいい機会なので、初めての方もいるが遠慮しないでどんどん意見を出していただき、取り入れられるものは取り入れてもらって町民の方が使い勝手のいい公共交通の計画を立てていくことが必要かと思しますので、協議会の場を活かしてもらい発言してもらい忌憚のないご意見をだしていただき、より有意義な計画づくりを進めいただければと思う、今年も協力させていただきますのでよろしくお願い致します。

事務局) 会長のあいさつの中にもありましたが、来年4月常豊幼稚園、小学校が埴に統合になりますので、バス路線変更などが出てくると思いますので、オブザーバーである教育委員会の星課長補佐より何かあればお願いしたい。

教育委員会星補佐) 常豊小・幼稚園が4月から埴小学校へ統合するというので、これから児童園児の足として交通路線の確保が必要になりますが。出戸線という福島交通の路線がありますので、その路線を活用して経路の変更や運行時間の変更などを行い対応しきれない部分は委託バスにということ検討していく。これについて、9月に保護

者のみなさんと9月にお話しする機会があるので、そのあと地域の皆さんにもお知らせして、ご協力をお願いして行こうと思っている。

## 6. 閉会（木村副会長）

高齢者の利用者の代表として、高齢者の利用者が少ない。老人会の解散により老人同士の情報交換が減ってしまった。アンケートをとっても特に笹原地区はすくないのではないのではないかと思う。情報交換の機会が減っているため、いろいろな制度を利用するための情報交換ができていない。いろいろな会合で老人会のメンバーだけではなく、外の人を集めて説明に行きたいと思っている。免許返納者、バスの利用者についても病院の利用が多いが受診科が違う先生が違うため、同じ日に来られないなどと言う状況がある。高齢者も、自分の生活を守るのは自分で努力しなくてはならないことは話していきたい。

学校のバスの定期券についても、部活をすると利用したいバス停が違う、部活動の時期に合わせて路線バスに乗れない時間の問題など、いろいろと意見がある。

その時その場の色々と事情があるとおもうので、そういう情報をこの中で交換して地域の人に良く理解してもらおうこと、それが一番の課題ではないかと思う。

（閉会）